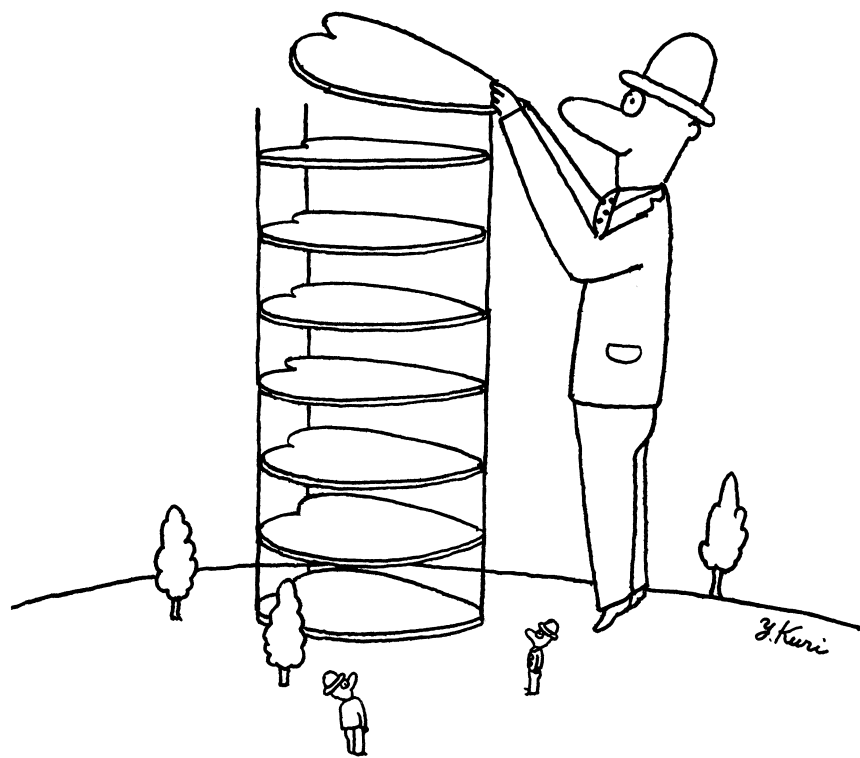


「
私たちが築くのは
「こころ」です。」



今、人は地球について考えています。
そして、自然のことを想っています。
地球があって、緑にあふれ、人々が生活する。
私たちはそんな基本的なことから考えたい。
私たちのふるさと・地球にやさしい技術の確立。
熊谷組の変わらぬテーマです。

— 人と地球の未来を考える —



熊谷組

本社 ● 〒162-8557 東京都新宿区津久戸町2-1 TEL:03-3260-2111
ホームページ URL <http://www.kumagaigumi.co.jp>

安藤ハザマ



人と技術で、未来に挑む。

私たち安藤ハザマは、確かな技術と豊富な経験・ノウハウをもとに、
安全・安心で、高品質なもののづくりを実践し、さまざまな形で人々の暮らしを支えています。
これから、社員一人ひとりの情熱と、時代に先駆けた技術力を掛け合わせ、
新たな価値を創造し、豊かな未来の実現に挑戦し続けます。

株式会社 安藤・間

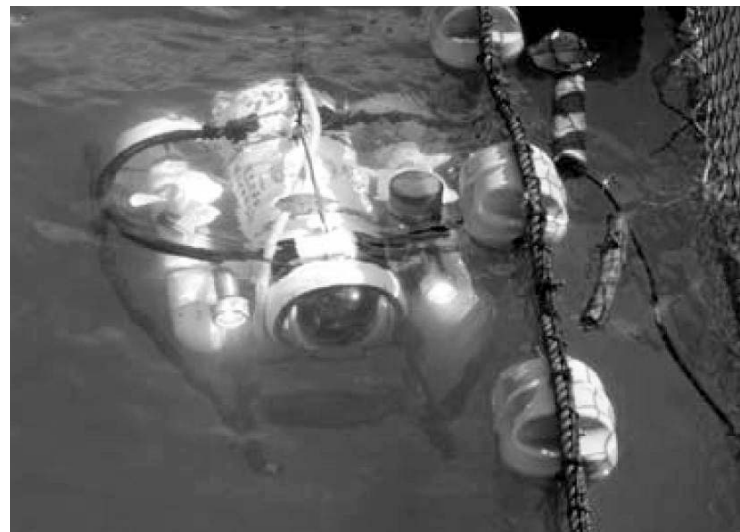
東京都港区赤坂六丁目1番20号 TEL: 03-6234-3600(代表)
<http://www.ad-hzm.co.jp/>

災害対策に強い味方

次世代社会インフラ用ロボット

点検や応急復旧作業に

コスト・人材面の課題解決



橋やトンネルの維持管理や災害時の調査・復旧に役立つ「次世代社会インフラ用ロボット」が実用化に向け動き出した。経済産業省は新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）を通じて、5カ年計画のロボット開発プロジェクトを開始。国土交通省は直轄の橋やトンネル、ダムを使い、ロボットの性能実証事業をスタートする。社会インフラの安全確保のため、橋やトンネルの定期点検が自治体に義務づけられたが、地方では優秀な技術者や十分な予算を確保するのが難しい。現場関係者はロボットの活用を期待を寄せている。

建設産業

インフラ用ロボットの
実用化に期待が高まる
（水中施設向けロボット
のイメージ）

ほか、地方では橋やトンネルの構造に精通した技術者を確保することが難しい。これらの課題を解決する一つの手段として、政府はインフラ用ロボットの開発・導入事業を開始した。経産省と国土交通省はインフラの維持管理、災害対応用途における重点分野を定め、各分野に対応したロボット開発・導入を後押し。NEDOは橋やトンネルの性能をテストする。

国土省、開発後押し

各地で現場説明会

国土交通省は性能実証の開発に先立ち、全国10カ所のテストフィールドで現場説明会を開催した。東京都八王子市の新浅川橋で開かれた説明会には約20社が参加。新浅川橋の下を流れる浅川の河川敷

から橋を見上げつつ、試験要件などについて説明があり、ロボット開発企業は実際の現場に立ち入ることで多くの気づきを得た。飛行型ロボットを使う予定の参加者は「想定以上に風が強い」と懸念を示し、車載タイプのロボットを使う参加者は「河川敷では車が入れない」と悩みを吐露した。各社は、現場説明会で得た課題をロボット開発にフィードバックする方針。国土交通省は「せっかく良いロボットでもコストが人間様にかかるのでは意味がない。コスト面を重視させていきたい」と参加者に念を押していた。

性能実証試験では、国土交通省が事前に一度インフラの老朽化を診断し、「正解」を用意した上でロボットをテストする。試験は1ロボットにつき1カ所でも十分だが、実際にビジネスにつながる

ロボットとするにはさまざまな状況に対応できる汎用性が必要だ。現在のところ国土交通省は16年度の活用化を目指しているが、現場は「良いロボットならば15年度から使っていた」と前向きだ。全国にある橋は70万本。そのうち2割以上で築50年以上の橋の割合は、13年度に18%だったが、23年度は43%へと増加する。トンネルも全国に約1万カ所あるが築50年以上のトンネルは34%で20%、23年度には34%に増加する。都市インフラの老朽化は加速しているが、緊縮財政もあり国土交通省の直轄維持修繕費は過去10年間で20%も減少している。市区町村も同様に事情が厳しく、専門の技術者も集めにくい。少子高齢化の進展により人口減少社会に突入した日本、限りある資本・人材で発展を目指すには「自動化できる作業は率先してロボットに任せ、姿勢が必要だ」と。インフラ点検ロボットの活用は、来るべき「ロボット社会」の第1幕となるに違いない。

おかげさまで

70th
Anniversary

受け継がれた技術、
これからの未来へ



京成日暮里駅



信用と技術の
鉄建

〒101-8366 東京都千代田区三崎町 2-5-3 Tel.03-3221-2152

「建設品質」

佐藤工業は1862年に創業。
これまで「建設品質」をキーワードとして、
安心・安全で快適な空間の創造、
良質な社会基盤の整備に
取り組んでまいりました。
その長い歴史の中で脈々と
受け継がれてきたのは、

確かな技術と情熱に裏打ちされた、
建設人としての誇りと使命感です。
これからは私たちは、
夢のある未来社会の実現に向けて、
時代とともに歩み続け、
豊かな地球環境を築くため、
さらなる飛躍をめざしてまいります。

— 総合建設業／創業1862年 —



佐藤工業株式会社

<http://www.satokogyo.co.jp>